

【様式】

令和元年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立四日市高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<p>○ 遍く険しく、光輝く八稜星のごとく (八稜星) = 四高のシンボル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多方面にわたって発展する若人の情熱を表現。 ・ 「八」は、画一を排し多様な価値観を大切にする懐の深さ、「稜」は高く険しき壁にぶつかっても、心を動かさず耐え忍び、努力で克服する堅忍不拔の心意気を表象。
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>(1) 自主・自律の精神(学習面・生活面) (2) 幅広い視野(グローバル・マインドとシチズンシップ(市民性)) (3) 挨拶(相互に尊敬し合う態度)</p>
	ありたい 教職員像	<p>○ 勤務してやり甲斐があり、楽しい。 ○ 教職員相互が協力し合い、助け合う学校組織文化がある。</p>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 学力の向上、進路保障、部活動や交友関係の充実、安心して過ごせる学級。</p> <p><保護者> 教員の学習指導力、進路指導力・対話力、人間関係の育成、安全安心な学校・学級。</p> <p><地域社会> 学力の伸長、人格の形成、豊かな心、リーダーとしての人材の育成。リーディングハイスクール、トップ校としての進学実績。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p><中学校> 四日市高校教員への指導力向上。</p> <p><予備校・学習塾> 情報交換や情報共有。</p> <p><地域社会> 本校との良きパートナーシップ。 人間教育育成全般への期待（文化行事、文化・運動クラブ団体等）。</p>	<p><大学・研究機関> 先生方の講義協力（大学出前授業等）。</p> <p><予備校・学習塾> 授業改善のための研修などによる協力。 情報交換や情報共有。</p> <p><地域社会> 各団体や地域と相互に自立した関係の樹立。 豊かな心の育成、健やかな体の育成。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの SGH の取組の成果が着実に蓄積され、生徒の学びの質を高め、進路選択にも好影響をもたらしていることから、成果を整理・分析し、引き続き SSH の取組へ深化させ、さらなる発展を期待する。特に、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進、および、大学や地域企業との連携型 PBL (Project Based Learning、Problem Based Learning) などを推し進めることが重要である。 ・ 授業評価アンケートなど、授業改善への取組が継続的に行われ、探求する力を培う活動を充実させていく一方で、様々な悩みを持つ生徒へのきめ細かな支援体制も継続・充実させていくことを期待する。特に、SNS 等のネットに関する諸問題には細心の注意が必要である。 ・ 教員の多忙となりがち業務を精選し、量から質への転換を図るとともに、教育の質的向上に資することを希望する。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>○ 本校は、1899年の創立以来、我が国及び国際社会において活躍する多くの人材を輩出しており、三重県を代表する進学校として、生徒、保護者及び県民から大きな期待が寄せられています。とりわけグローバル化や人口減少が進むなか、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む役割が求められています。</p> <p>○ 生徒の視点に立ち、生徒一人ひとりの個性と生きる力（確かな学力、豊かな人間性、健やかな体）の育成を図るとともに、全ての生徒に卒業後も高度で優れた学問を学び続けうる質の高い「学力」を培う必要があります。</p> <p>○ 「文武両道」の校是のもと、学習の充実と活発な部活動を効率的、効果的に行っていますが、主体性・多様性・協働性を育むための取組への支援を含めた在り方について考察する必要があります。</p>	

学校 運営等	<p>○生徒一人ひとりが自らの在り方・生き方を確立できるよう、教員との十分な対話の機会を設けるとともに、引き続きスクールカウンセラー等外部人材とも連携し、教育相談体制の充実を図る必要があります。</p> <p>○教育活動への献身的な取組が教職員の過重労働を生む土壌となっていることから、業務の精選・重点化を図るとともに教職員相互が協力し合い、助け合う学校組織文化を、より一層、醸成する必要があります。</p>
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○昨年度まで実施したスーパーグローバルハイスクール事業（SGH事業）の成果を継承し、新たに取り組み始めたスーパーサイエンスハイスクール事業（SSH事業）（平成30年～34年度）を活用して、新しい高校教育の在り方を研究し、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む高校として、その役割を果たします。</p> <p>○生徒が学力を高めることができる指導を充実させるとともに、探究的・主体的・対話的な学びについて研修を深め、本校独自の学習指導方法を活用し、継続して授業内容の充実に努めます。また、授業時間の確保に努め、学力の保証、充実、伸長に努めます。</p> <p>○生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら同時に、市民性・社会性（シチズンシップ）を育むとともに、本校に集うすべての人々が相互に尊敬し合い認め合う心で挨拶を交わす温かい組織風土を培います。</p>
学校運営等	<p>○生徒の学習状況や生活実態及び学級の状態を把握することにより、学力の向上及びいじめや不登校の未然防止等を図り、生徒の視点に立った理想の学校、理想の学級集団づくりを進めます。</p> <p>○教育計画や指導方法に関する実質的な議論が行えるように、各種委員会の充実や情報交換会、教員同士の授業見学等を充実して組織を活性化させ、教員の学習指導力と生徒指導力の両面を高めます。また、働き方改革にとりくみ、業務の精選・重点化を図るとともに教職員が相互に協力し合い助け合う学校組織文化を醸成します。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果（1月末現在）	備考
SSH事業における人材育成	<p>1 SSH事業の2年目を迎え、事業全体がスムーズに運用できるよう校内体制を整え、特に事業の中心となる2年生の学校設定科目の充実に努めます。</p> <p>（※注）本校SSH事業の活動内容については、学校HPをご確認ください。</p> <p>【活動指標】学校設定科目(SSH学)の整備</p> <p>① 探究Ⅰ ② 探究Ⅱs、探究Ⅱa、探究Ⅱb、探究ⅡL ③ 探究Ⅲ ④ 科学総合Ⅰ、科学総合Ⅱ ⑤ 論文英語 ⑥ グローバル・ヒューマン学 ⑦ 四日市高校版「科学の祭典」運営</p> <p>【成果指標】SSH事業の実践的効果の検証と改善</p> <p>2 国内成果発表会への参加、海外研修の準備を効果的に推進します。</p> <p>【活動指標】生徒の国内発表(ポスターセッション)総計5回以上参加する。</p>	<p>1</p> <p>【活動指標】</p> <p>①～⑦の各科目について、SSH探究会議などを通じ、科目担当と連携しながら適切に準備、実施した。</p> <p>「SSH推進会議」を年14回、「SSH探究会議」を年10回、「グローバル・ヒューマン学担当学会」を年5回実施した。</p> <p>【成果指標】</p> <p>各科目の目標に向けた指導方法の提案・現状の共有、評価方法、次年度以降の改善等を協議した。</p> <p>2</p> <p>【活動指標】・SSH東海フェスタ2019・SSH生徒研究発表会・みえ科学探究フォーラム 2019・第68回三重生物研究発表会等、生徒の発表(口頭・ポスターセッション)計8回参加した。</p>	◎

<p>学習指導 力向上</p> <p>授業の充 実、及び 学力向上</p> <p>授業時間 の確保</p>	<p>1 生徒が興味関心を示し、内容を理解し学力が向上する授業を実践するために、「授業改善アンケート」を年2回実施し、「説明や発問等の仕方」「教材の準備や提示の仕方」「指導の工夫」等の視点別に教員が自己評価し、改善することにより、授業の質の向上を図ります。</p> <p>【活動指標】授業改善アンケート年2回実施</p> <p>【成果指標】視点別12項目平均点3以上(満点4点)</p> <p>2 習熟度講座、少人数講座等を実施し、理解や定着を図り、生徒の満足度を高めます。また、定期試験、実力試験、実力養成試験などの他に確認試験や宿題試験などを実施し、個人及び学年集団の学力を分析し、きめ細かい学習指導を行います。</p> <p>【活動指標】各試験の実施、補習授業等学力補充の実施、各学年の学力検討会議を年10回以上実施</p> <p>3 授業時間を確保するため、年間通して計画的に実施するとともに、自習時間は時間割変更して対応します。</p> <p>【成果指標】自習時間数ゼロ</p>	<p>1</p> <p>【活動指標】生徒からの授業評価「授業改善アンケート」を年2回(6月、12月)に実施。授業担当者には科目別に視点別12項目結果をフィードバックして授業改善に活かしている。</p> <p>【成果指標】12項目平均点3.42(昨年度3.44)であった。</p> <p>2</p> <p>【活動指標】2年生で国語、英語、3年生で数学の習熟度講座を開講している。例年、アンケートで高い満足度が得られている。(アンケートは2月に実施予定)各試験を実施。確認試験は各教科・科目で適宜実施。</p> <p>(1年)学力検討会議13回実施(予定)</p> <p>(2年)学力検討会議14回実施(予定)</p> <p>(3年)学力検討会議を8回実施</p> <p>3</p> <p>【成果指標】曜日や時限によって授業時間数が不均衡にならないように計画的に実施している。自習時間は、4時間(30年度4時間29年度12時間、28年度12時間)</p>	<p>◎</p>
<p>学級経営</p> <p>人権教育</p> <p>生徒指導</p> <p>読書推進</p>	<p>1 アンケートや面談を実施し、学級集団の状況や生徒一人ひとりの状況を把握し、親和的な学級集団の育成に取り組みます。</p> <p>【活動指標】個人面談年間3回以上、アンケート1、2学年1回実施</p> <p>【成果指標】学年修了時に全学級が満足型になる。</p> <p>2 人権教育推進計画を基盤にし、日々の授業や学校生活で実践を行います。また、人権学習を実施し、人権に対する意識を更に高めます。</p> <p>【活動指標】人権教育の観点を取り入れた授業、「人権講話」、人権学習の実施</p> <p>3 生徒同士、教職員、外来者等に対して場面に応じた挨拶ができるスキルを身につけるために、生徒会役員、室長、運動・文化部の部長が核となった挨拶運動など、生徒のコミュニケーション能力向上につなげます。</p> <p>【活動指標】生徒を主体とした挨拶推進運動年5週以上実施</p> <p>【成果指標】学校関係者評価委評価「概ね達成できている」以上、授業公開日保護者アンケート「概ね達成できている」以上</p> <p>4 読書活動を推進することにより、生徒の視野を広げ、思考力を高め、想像力を豊かにし、人間形成を醸成します。また、幅広い資料提供を通じ、生徒一人ひとりの課題解決学習を支援します。</p> <p>【活動指標】教科、学校行事、SSH等と連携した展示回数：10回以上</p>	<p>1</p> <p>【活動指標】</p> <p>(1年)個人面談4回(予定)</p> <p>(2年)個人面談4回、アンケート1回</p> <p>(3年)個人面談5回実施</p> <p>2</p> <p>【活動指標】人権講話を実施し、アンケートの自由記載部分が例年60人程のところ、今年度は300人を超えた。更に長文で記入生徒が半数おり、好評であった。</p> <p>3</p> <p>【活動指標】生徒会が中心となり、部活動や室長などの協力を得て挨拶運動5週以上実施。登校安全指導においても年間20回以上、教員が当番制で実施。</p> <p>【成果指標】授業公開保護者アンケート(5段階)では、上2段階が86%であった。</p> <p>4 展示や広報により、生徒の読書活動を促すとともに、一部の授業では本や雑誌、新聞記事を活用した学習の支援を行った。</p> <p>【活動指標】教科、学校行事、SSH等と連携した展示回数：10回実施(2月予定の1回を含む回数)</p>	<p>◎</p>

改善課題

- ・SSH事業2年目が終了し、3年目の完成年度を迎える令和2年度に向け、事業内容を精選して効率よく事業を推進し、新学習指導要領の目的に沿いながら、より主体的で、対話的な深い学びを実現するための取り組みを考察する必要がある
- ・新たに全普通教室に設置したプロジェクターを効果的に授業に取り入れ、生徒の意欲や学力向上を図るために教員同士がお互いに切磋琢磨し、授業力向上に向け、研修等をより充実させていく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果(1月末現在)	備考
現状把握 と組織改 善	<p>1 教科の指導計画や教材の共有化等を図り、教科内の情報交換を進めます。また各教科、科目指導計画の進捗状況調査を行い、学習指導の品質を整え、充実を図ります。また、質、量の両面から生徒の実態に合った課題が提供されているかについて必要に応じて聞き取り、定期的に検証し、適切な家庭学習が行われているかを把握し、生徒の学力向上につなげます。</p> <p>【活動指標】教科会を教科毎に10回以上実施、進捗状況調査の実施、全教員が他の教員の授業に年間1回以上参加してコメント提供。課題の質、量調査結果と学力向上の相関性について分析。成績順位別に任意抽出した生徒から聴き取り、実態を把握し、1学年は6、9月、2学年は6、11月に校長に報告し、改善につなげる。</p>	<p>1</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科・科目でシラバスを作成し、情報の共有を行っている。 ・年2回の授業公開日には全教員が他の教員の授業に参加するように努めている。また、研究授業を実施した。 <p>(1年)課題の取り組み成果を記入させたシートにより学力検討会議で適正量を決定した。</p> <p>(2年)聴き取りは適宜個人面談前にアンケート形式で実施し、学力検討会議で協議の上、戦略会議に報告した。</p>	※
教育相談	<p>2 いじめや体罰の未然防止や早期発見に努め、必要に応じて関係機関とも連携して、生徒一人ひとりの心のケアに努めます。</p> <p>【活動指標】生徒全員の個別面談年間2回、スクールカウンセラー等の校内外の専門家、教育相談担当者、養護教諭と学年会議によるケース会議(※注)の実施</p> <p>(※注) ケース会議とは、チームで子供を支える教育相談及び特別支援教育の会議</p> <p>【成果指標】長期欠席生徒数が前年度より減少、いじめ・体罰ゼロ</p>	<p>2</p> <p>【活動指標】生徒との個別相談を1、2年3回、3年5回実施した。また、学年と情報共有、対応方針の検討などを行い、連携して支援できた。</p> <p>【成果指標】長期欠席生徒数は、現2年、3年とも昨年度より若干増加した。1年生は、保健室登校はいるが、長期欠席者は前年度1年生より減少した。</p> <p>いじめ認知2件、体罰ゼロ。早期発見早期対応することで、適切に解決できた。</p>	◎
情報提供	<p>3 保護者、生徒との希望を把握した上で進路検討会議を実施し、個に応じた進路指導を組織的に行い、生徒の学力、適性にあった進路を実現します。また、保護者に最新の進路情報を提供するとともに、受験への支援や理解を図ります。</p> <p>【活動指標】保護者面談、生徒個別面談、進路検討会議の実施</p> <p>4 保護者や地域へ学校生活の情報発信を積極的にすすめます。</p> <p>【活動指標】HPの充実やICTを利用した情報伝達を行う。</p>	<p>3</p> <p>【活動指標】3学年は保護者面談2回、生徒個別面談5回、進路検討会議4回を実施。1・2学年は保護者面談1回、生徒個別面談3回を実施。</p> <p>4</p> <p>【活動指標】HPの更新が遅れたが主要行事について掲載した。また新たに「Google Classroom」を導入して動画対応(クラブ活動、修学旅行)を行った。</p>	

<p>保護者連携</p>	<p>5 土曜学習会や課外授業(夏期講座含む)を充実させ、個に対応した指導を行います。</p> <p>【活動指標】 土曜学習会および課外授業の実施</p> <p>【成果指標】 3学年 11 月時点での第 1 志望校への出願率 70%以上</p>	<p>5</p> <p>【活動指標】 P T A の主催により以下の活動を行った。</p> <p>平日課外</p> <p>3 年生 (I 期) : 11 講座、281 名受講 (II 期) : 16 講座、437 名受講 (IV 期) : 13 講座、386 名受講 (V 期) : 14 講座、387 名受講</p> <p>2 年生 (I 期) : 9 講座、360 名受講 (II 期) : 11 講座、273 名受講</p> <p>夏期課外</p> <p>1 年生 : 12 講座、832 名受講 2 年生 : 18 講座、896 名受講 3 年生 : 41 講座、1489 名受講</p> <p>土曜学習会</p> <p>各学年で計画通り実施</p> <p>【成果指標】 3 学年 11 月時点での第 1 志望校への出願率 86%</p>	
<p>組織活性化</p>	<p>1 進路主任を座長とする「学力向上戦略会議」(校長直轄)を定期的に関き、授業改善等に先進的な取組を行っている高校の実態の把握、指導方法の工夫、シラバス進捗状況のチェック、学年間情報連携等を行い、学力向上のための戦略と戦術を研究する。</p> <p>【活動指標】 年間12回以上実施</p> <p>【成果指標】 生徒一人ひとりが学年始めより学年修了時実施の同種の校外模試等において成績向上</p> <p>2 各種面談、アンケート調査、ケース会議などの情報、知見をもとに主任会議や各種委員会を定期的に関催して情報共有を図るとともに、校務分掌や部活動の在り方等も含め、継続した学校経営改善に取り組みます。</p> <p>【活動指標】 中間評価を実施、改善点の提案各委員会 1 項目以上提案</p>	<p>1</p> <p>【活動指標】 「学力向上戦略会議」を 10 回実施した。</p> <p>【成果指標】 各学年の課題解決に向けた取組の提案案・現状の共有、次年度以降の戦略等を協議した</p> <p>2</p> <p>【活動指標】 中間評価は実施できていないが、募集定員減に伴う教員定数減に対応するため、校務分掌の再編に関して戦略会議、企画委員会等で適切に対応した。</p>	<p>※</p>
<p>働き方改革</p>	<p>1 働き方改革にとりくみ、業務の精選・重点化を図るとともに教職員が相互に協力し合い助け合う学校組織文化を醸成します。()内はH30実績</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉定時退校を月 1 日以上実施。その日に定時退校できる職員の割合 85% (95%) ・部活動休養日を週 1 日以上設定。予定通り休養日を設定した部活動の割合 100% (100%) ・放課後開催の会議時間を短縮し 60 分以内に終了する会議の割合 85% (86%) <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間を月あたり 2 時間以上削減 (37.6 時間/年) ・休暇取得を年 0.5 日増加 (18 日/年) ・月 80 時間を超える時間外労働者延べ人数を 50%削減 (73 人/年) 	<p>1</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉定時退校日は毎月 1 日実施。その日に定時退校した職員 95% (昨 95%) ・部活動休養日を週 1 日以上設定。休養日を設定した部活動 100% (昨 100%) ・企画委員会以外の放課後の会議は、ほぼ 60 分以内に終了できている。 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外労働時間は 1 月末現在月あたり 37.7 時間でほぼ横ばいであった。 ・休暇取得は 1 月末までの日数をもとに 1 年予想計算すると 18.4 日となり、前年と比べほぼ横ばいであった。 ・月 80 時間を超える時間外労働者延べ人数は 1 月末現在 58 人で、50%削減は達成できていないが、微減である。 	<p>※</p>

改善課題

- ・生徒の満足度の高い進路実現を目指し、かつ多様な生徒状況にスムーズな対応ができるように、これまで以上に校内での情報共有を進め、また令和元年度途中に開始した「Google Classroom」等の有効活用を図りながら、保護者との連携を深める必要がある。
- ・全県で使用されている統一校務支援システムをより有効に利用できるよう、また本校が使いやすいようカスタマイズを進め、システム全体のさらなる活用方法の研究を進める必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

- ・SSH事業を推進し、さらに発展させる方策について、これまでの成果を踏まえ、主体的・対話的で深い学び、特に「対話的で深い学び」を実現するグループワークなどの協働的な学習の構築をも期待する。
- ・ICT機器を効果的に授業に取り入れ、生徒の意欲や学力向上を図るための教材や教育方法の共有を推し進め、絶え間ない授業改善、授業力向上に向けた研修等の充実を望む。たとえば、「Google Classroom」等のネットツールの有効性を考え、活用の方向性を吟味するとともに、保護者との連携を深めていくことが重要である。
- ・教職員の働き方改革に向け、業務内容や分担を精査し、量から質への転換を図るとともに、必要以上のストレスが発生しないよう教職員全体の共通理解を進めることが望ましい。

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

SSH事業3年目の完成年度を迎えるに当たり、改めてSGH事業時の成果や指導手法を活かしながら、かつこれまで2年間のSSH事業の経験に基づき、教員の負担減も考慮して指導内容を精選し、効率よく事業を推進するため、「探究」担当者間でより密に連携を取り合えるようにする。

また全普通教室に設置したプロジェクターを有効に利用するため、教員同士がお互いに授業交流を深め、またICT先進校からの情報も収集し、授業力向上に向け研修等をより充実させていく。

学校運営についての改善策

SSH事業の安定した運営のため、SSH担当を中心とした組織体制を見直し、2年間の経験を活かした、生徒にとって有効で、かつ教員にとって負担度の少ない体制を構築する。

また、令和元年度途中に開始した「Google Classroom」の利用について、保護者との連携等に有効活用できるようさらに研究を進める。

さらに十分に使いこなせていない統一校務支援システムについて、より有効に利用できるよう県教委とも連携し、本校が使いやすいようカスタマイズを進め、活用方法の研究を進める。